

雪国の植物 ユキツバキ 11

チャボガヤとの分布域の比較

石 沢 進

雪国に適応分化したユキツバキと共存あるいは住み分けしている植物については、このシリーズの 5. 県内稀産のヒノアスナロとの共存 (13号)、10. 住み分けるラショウモンカズラ (18号) で紹介したが、今回はチャボガヤとの分布域の比較を取上げてみたい。

チャボガヤ *Torreya nucifera* (Linn.) Sieb. et Zucc. var. *radicans* Nakai (カヤノキ科) は、ユキツバキのように日本海側に分布している常緑低木である。新潟県では海や平野に近い山地の低所に広く分布している。また阿賀野川、信濃川、関川、姫川などの河川沿いに内陸までみられる。しかし、内陸の高海拔地では少なく、1000mを越えて分布するのは県の南部に限られる。県内の栃尾市、小千谷市、魚沼地方など多雪地域では分布を欠く傾向にあるので、それらの地域ではユキツバキと共存していない。

チャボガヤの内陸の多雪地域での分布は積雪量の少ない急斜面や河川沿いの崖付近に生育している場合が多く、長期間積雪に圧せられる条件では生育の適地でないものとみられ、ユキツバキとは住み分けしている。

新潟県全体ではチャボガヤはユキツバキの分布を指標にした分布型に類別すると、水平分布ではユキツバキの分布域の約4割を共有するが、水平分布地点の約77%がユキツバキの分布域内にある。また垂直分布では、低い地域にあるので、90%以上がユキツバキの分布域内に含まれている。つまり、ユキツバキのように県内全域に広がっていないが、分布地点の大部分はユキツバキの分布域内にあることを示している。そのような分布型をIII-A群に類型しているが、同じような分布型を示すものにウラジロイタヤ、アズマシロカネソウ、ホクリクネコノメ、ミヤマカワラハンノキなどが含まれる。

このように日本海要素の植物であってもユキツバキの分布域と比較することにより、それぞれの植物の分布域の特色や相異が明確になってくる* (15頁下参照)。

文 献

関 省吾 新潟県植物分布図集 第1集 :13-17.

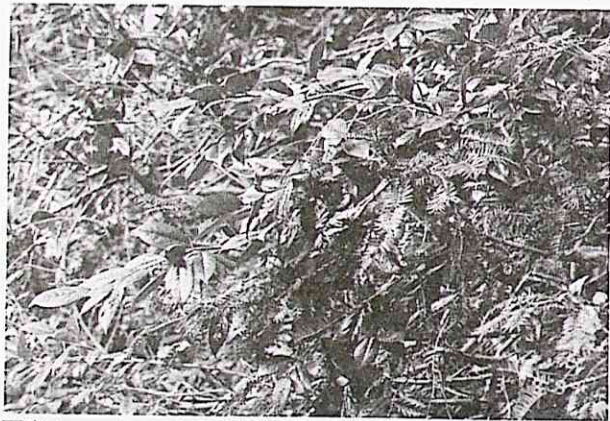


写真1: ユキツバキと共存するチャボガヤ
岩船郡関川村朴坂山 [1994 9 10]



写真3: チャボガヤの開花前の雄性花穂
西蒲原郡弥彦村弥彦山 [1992 3 26]

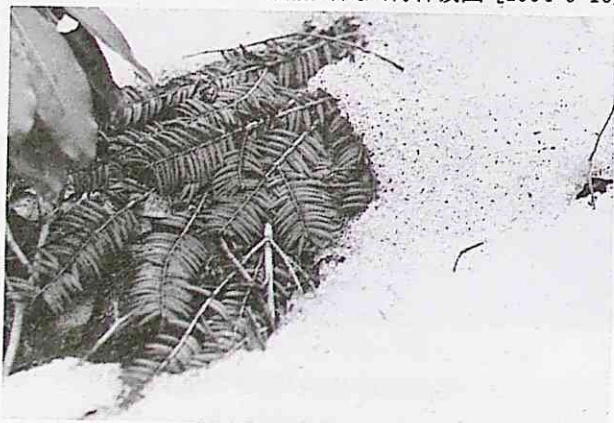


写真2: 冬期積雪下のチャボガヤ
西蒲原郡弥彦村弥彦山 [1992 3 23]

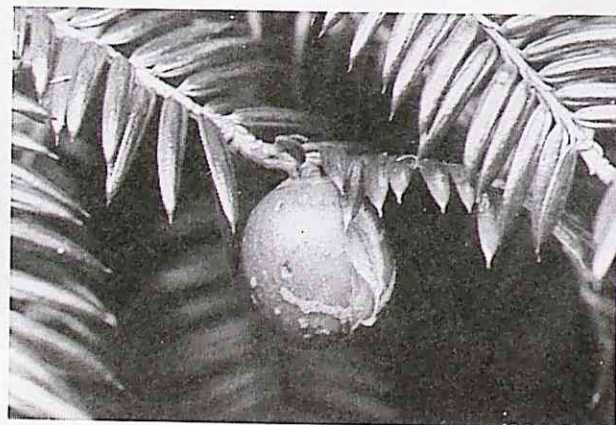
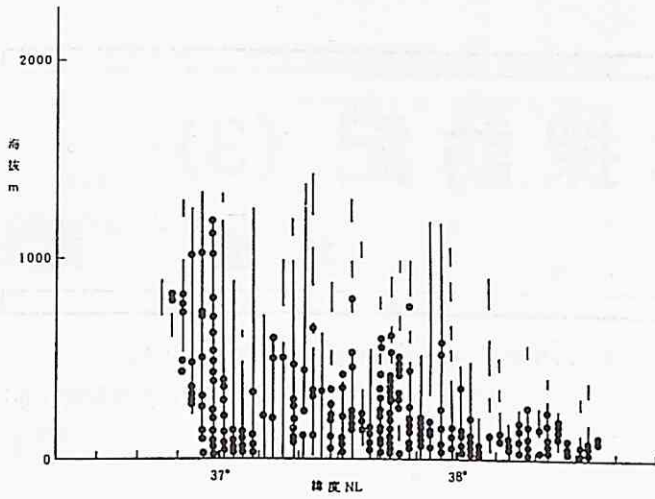
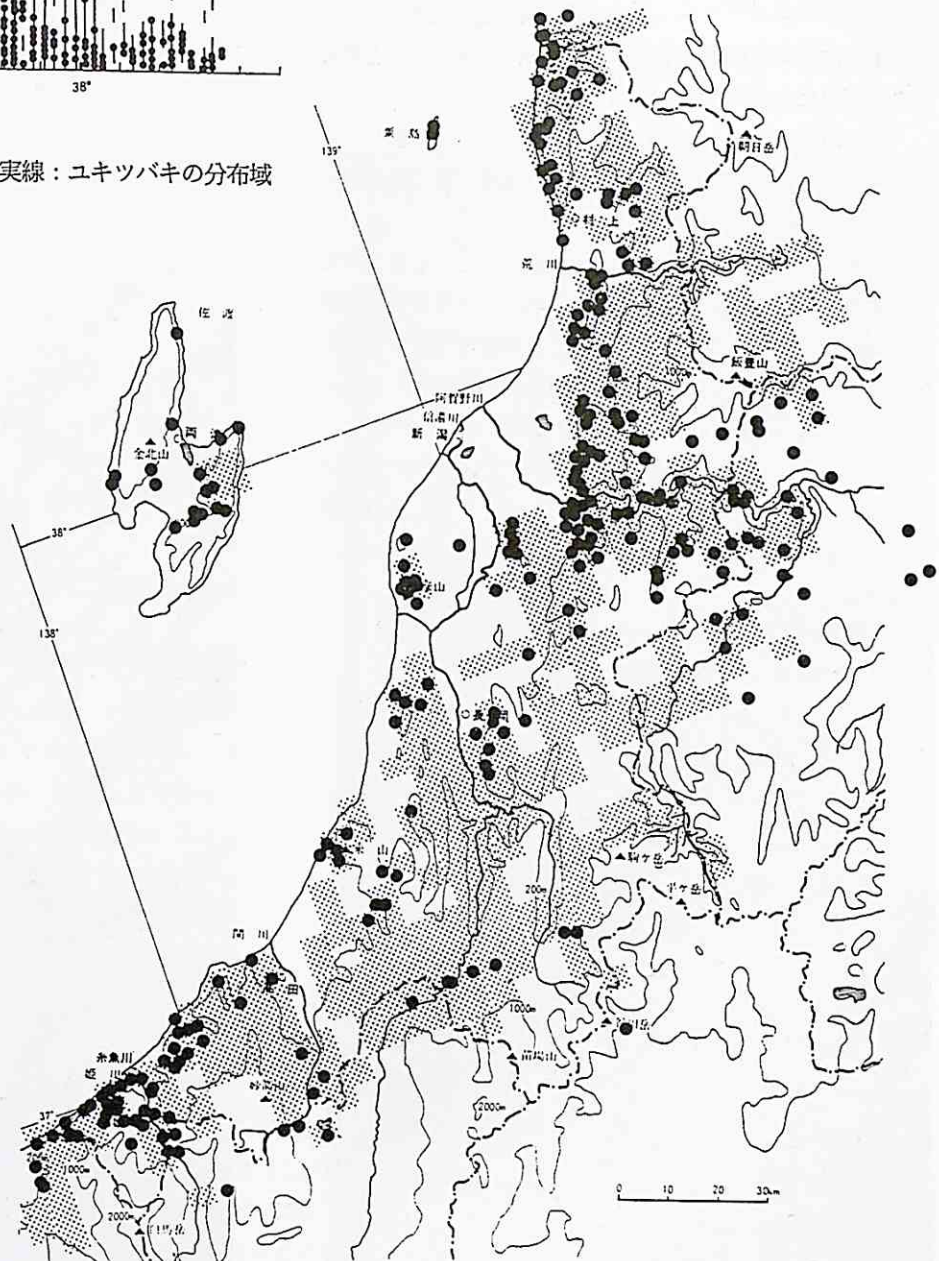


写真4: チャボガヤの種子 (仮種皮一部裂開)
東蒲原郡上川村名古津 [1993 10 3]



垂直分布図

黒点:チャボガヤの分布地点、実線:ユキツバキの分布域



水平分布

黒点:チャボガヤの分布地点、細点:ユキツバキの分布域、チャボガヤの新潟県とその周辺部における分布

*日本海要素の植物100種についてユキツバキとの分布域の比較を行ない類型を試みている。その成果が2月中に次のような書名で出版される予定である。

「ユキツバキを指標とした植物分布——新潟県における日本海要素の分布類型——」

部数の少ない限定出版で、一冊当たり9,500円の予定 [予約受付中 (石沢まで)]